

かわさきコロナ情報(動画特設ページ)

#27 令和2年8月11日～受け入れから半年 市立川崎病院のいま～

こんにちは、川崎市長の福田紀彦です。今日は、「患者受け入れから半年、川崎病院のいま」ということでお伝えしていきたいと思います。

約3か月前の5月15日のこのかわさきコロナ情報で川崎病院がどうなっているかという現状をお伝えしました。その動画ですけれども、3万7000回の視聴数、皆さんに御覧になっていただいて、御覧になっていただいた方から本当に多くのお手紙だとか労いの言葉が病院関係者に寄せられました。改めて心から感謝を申し上げたいと思っています。

2月6日にダイヤモンドプリンセス号から初の患者を受け入れてもう半年が過ぎました。今、また感染が少し多くなってきて、病院の入院の患者さんたちも一時期に比べて増えています。そこで現状の川崎病院のいまというところでお伝えしてまいりたいと思います。

それではどうぞ御覧ください。

(動画スタート)

5月終わりから6月ぐらいにかけてコロナの患者さんが減ってきて、6月には実際にコロナの患者さんが0になった日もある。その時にはスタッフの誰もがこのまま終息してくれればと思ってたんですけど、7月1日からまたどんどんコロナの患者さんが増えてきて、今また重症の患者さんが増えてきているので、スタッフの心身が休まる間もなく、また、コロナの患者さんの対応というところでちょっと気持ちが上向きかけていたところに、また患者さんの対応というところで、最初は若い人とかが多かったんですけど、今結構高齢者の方がやっぱり増えているので、入院も、いろんな合併症とか持っているのが長期化する方も増えてきてます。

狭い病室でお部屋から出れないという状況が続くと、ADL といって、立ったり座ったりとか、自分でお手洗い行ったりとかって動作ができなくなってしまったり、筋力低下をしてしまう患者さんが増えてしまうので、そういった方が実際に病気が治って帰るときに、自宅に帰って元々の生活ができないとならないように、リハビリとかにも前よりは力を入れてケアをしています。

4階の廊下にも貼ってあるんですけど、小学校・中学校からの励ましのお手紙とか、他の都道府県からもニュースとかシティプロモーションを見て応援のお便りをくれた方とかがいたり、あとはやっぱり実際に退院した患者さんの御家族からもお礼のお手紙をいただいたことがあるので、それがとてもスタッフにとっては励みになっています。

自分たちがやらなきゃっていう思いがすごくあって、コロナになってから、このことが原因で辞めるっていう人が誰もいないんです。私たち、ER、救急外来も一緒に診てるんですけど、たぶん暑くなってくると熱中症の患者さんとか増えてくると思うので、そういう患者さんとコロナで熱が上がっている患者さんの区別とか、今症状のない感染の方もいると思うので、救急外来でどのように自分たちも診ていくかが引き続き課題になると思う。

みんなモチベーション高く、元々救命センターに希望して配属されたスタッフとかもいるので、

たまにももちろん愚痴は出ますけど、そういうのを聞きながら、スタッフの愚痴とかもやっぱり吐き出す場がないと続かないと思うので、スタッフにもたまに吐き出してもらいながら、私たちが頑張れ頑張れって言わなくても、自分たちで既に頑張っている状況だと思います。

この6か月の経験っていうのも、私たち皆の自信にもつながっているもので、これからいつまで続くかちょっとわからなくて不安ももちろんありますけど、その経験を自信に代えてこれからもみんなで協力して頑張っていけたらなと、是非皆さんが感染しないようにしていただくのはもちろんですけど、町全体で感染しないように感染させないようにって続けていただいて、本当に皆で協力してやっていけたらなと思います。

医療従事者の私たちも応援のお手紙とかで本当に励まされていますので、それをモチベーションに頑張っていきたいと思います。

最初の頃は未知のウイルスって言われていたので、感染防御にもものすごく気を使ってももちろんやっていましたけれど、どこまでいつものような看護師としてのケアをしていいかっていうのが手探り状態だったし、自分たちが感染するんじゃないかっていう怖さもあったんですけど、自分が感染するっていう怖さの中にも患者さんにはやってあげたいことっていうのがあってすごいジレンマがあったんですけども、今は6か月診てきたっていう自信とか誰も感染していないということもスタッフの自信になっていると思いますので、コロナの患者さんじゃない患者さんと同様のケアをできるようになってきていると思っています。

ゾーニングされる。ここで脱いで、ここで着るといって感染症域がはっきりとわかって、着方もしっかり身についたのと、ケアが適切にできていると思います。感染対策をどこまでやればコロナにかからないのかという空気感染でうつるのか接触感染でうつるのかははっきりしていないところがあると思うんですけど、ここではスタッフがかかっているないので、スタッフがかかってないので、ここまでしっかりやれば大丈夫と自信を持っている。

入院患者さんは今日の時点で12人くらいいらっしゃいます。これまで累計で120名近くの患者さんを診ています。多くの患者さんは軽快して退院されていますけれども、不幸に亡くなった患者さんもいらっしゃいます。確定患者さんが大体60~70名診ていますが、そのうち3分の1以上は重症の患者さんです。ですから比較的重症例を多く診てきたということになります。医療職もいろいろなところから応援とか支援いただいてモチベーション高くやっております。4月頃、LAMP(ランプ)法という検査法を当院で導入して、自前で結果出せるようにしました。そうしますと検査始めて1時間かそこらで出るので、とても有効になります。これはコロナと戦う上での一つの武器になりました。

検査に関しては、もうごく最近ですけども、さらに抗原検査といって、24時間随時できるような仕組みをつくりまして、疑陰性が出るので信頼性がややLAMP法よりも落ちるんですけども、これも救急外来の現場では有効な武器として使わせていただいています。

HALO(ヘイロー)のプラスチックマスクっていう電動ファン付きのマスクですけども、かなり長時間使えるマスクを導入して、この先N95が枯渇するようなことになっても対応できるような仕掛けも作りました。

重症化しちゃう患者さんて大体高齢者です。当院では、当院の周辺の高齢者施設に、感染管理の専門看護師に出前講座やりますけどいかがですかという提案をして、いくつか高齢者施設を既に回らせていただいています。かなり好評で、それが結果出てるかどうかわかりませんが、まわった高齢者施設はもちろん感染は出ていないと聞いています。

ダイヤモンドプリンセスのときのフィリピン大使館からのお礼状はとても心がこもって素晴らしい感謝状をいただきました。今日もアメリカ大使館からいただいたみたい。

荻宿小学校6年1組の皆さんからお手紙いただきまして、私読ませていただきましてすごく感激しました。6年生なのによくいろんなことを見てて病院のことをよく知ってくれて、それでこういったものを書こうというふうにとってもありがたいなあと思いました。手紙の中に返事書きましたけれども、チームワークという言葉を入れましたけれども、病院の中でももちろんチームワーク作ってるんですけども、そのチームを支えている市民、市民とともにチームでやっているという感じがすごく感じましたし、すごくこれから大人になっていく子どもたちには是非我々のやっているこの職場も結構面白いから興味持ってねというような感じの手紙を書かせていただきました。

いろんな意味でコロナ対応を社会一丸となってやっていかなければいけない中で、小学生からも気持ちのこもった手紙をいただきまして本当にありがとうございます。

コロナこれだけ周りにいっぱいいるので、いるのを前提で診療していかないといけない。コロナの診療と一般診療と両立させる必要があると思っています。

救命救急センターの機能は落としてないですし、手術も普通どおりできる体制を組んでいます。ですから、救命救急機能、がん診療、それから手術治療、そういったものが必要な患者さんには是非川崎病院は汚いんじゃないとか心配されないで、その点は是非安心して、病院はそういったものを積極的にやろうという姿勢でありますので、是非安心して川崎病院には来ていただければ有難いなと思います。

(動画終了)

はい、御覧になっていただいていたかがだったでしょうか。

私も患者受け入れ当初に川崎病院の方へ行きましてスタッフを激励したんですけども、その時はやはり未知のウイルスだけにほんとに感染が不安でしょうがないという不安と疲労と中で手探りの中でやっていた状況でありますけれども、今VTR見ていただきましたら、半年経って1人の感染者も医療スタッフの中で出していないということもそうですし、大きな自信にこの経験がなっていると思っています。引き続き緊張感を持ってやっていかなければならないと思っています。そしてこの市立病院だけではなくて、市内の民間病院ともしっかりと連携を組んで、今、市内では270床のベッドを用意して備えています。市内での入院者というのは大体50名くらいでとどまっておりますので、そういった意味ではひっ迫している状況ではないと思いますけども、なるべく本当に感染拡大をさせないように皆さんの御協力を引き続きお願いしたいと思っています。

それからいくつかお願いしたいのは、最近やっぱりコロナの感染が不安で医療機関に受診を控えようとか、あるいは必要な予防接種もちょっと先送りにしようというような、そういう現象が出てきていますし、そういうお声もたくさんいただきます。

しかし、治療をやめてしまうとか中断させてしまう、あるいは必要な予防接種をしないということは、そっちのほうのリスクをむしろ高めてしまうということにつながりますので、各医療機関、川崎病院もそうですけども、それぞれの医療機関感染防止対策をしっかりと行っておりますので、適切な医療は受けていただくように是非お願いしたいと思います。

それから先ほど VTR にも出てましたけども、熱中症のことがすごく心配です。熱中症によって入院患者がどんどん救急で運び込まれてくると、それこそ必要な人に必要な医療を提供できなくなってしまうことでもありますから、熱中症は私たちが防げることでありますから、是非生活行動を注意していただければと思っています。

それから、大変ありがたい励ましの手紙だとかお言葉をいただく一方で、SNS ですとかあるいはいろんな各所で、医療従事者はじめこういった方たちに、コロナによるいわゆる差別というふうな偏見だとかがまだあるというのが残念な事実です。そこで、このコロナというものは誰がかかってもおかしくない病気でありますから、こういった差別的な言動は是非とも避けていただくようお願いをしたいと思います。

是非皆さんの協力で、何とかこの危機を乗り越えていきたいと思っています。

引き続きの御協力よろしくお願いたします。